

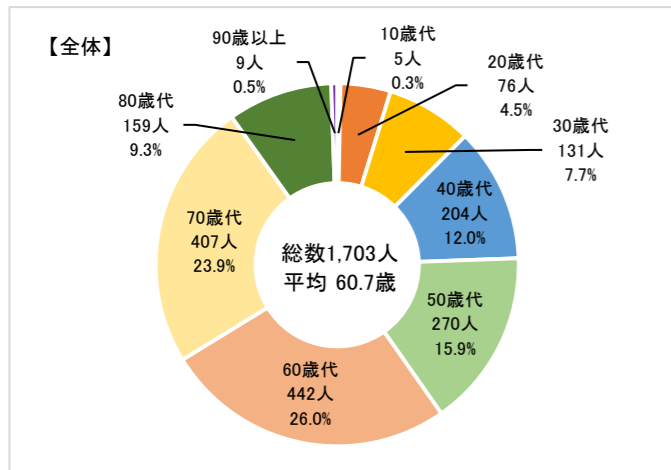
調査の概要

- 目的：漁業就業実態の把握と将来的な分析を行い、今後における漁業就業者の確保ならびに漁業生産の維持に向けた施策の展開を図るため、本市独自の漁業就業実態調査を実施するものである。
- 調査対象：市内の漁業協同組合に加入する組合員 1,723人（令和4年4月1日時点）

函館市漁業協同組合	158人	えさん漁業協同組合	423人
銭亀沢漁業協同組合	58人	南かやべ漁業協同組合	874人
戸井漁業協同組合	210人		
- 調査方法：市内の各漁業協同組合へ調査業務を委託
 - ・所属する組合員へアンケート用紙を配付・回収
 - ・漁協で把握可能な項目について調査票(エクセル)に入力
- アンケート：[配付数] 1,723件 [回収数] 1,518件 [回収率] 88.1%

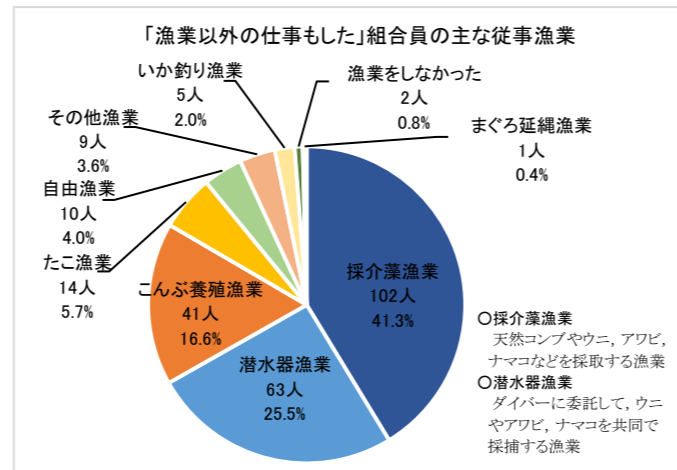
4月1日時点の年齢を記入してください。

- ・組合員(個人)の平均年齢は60.7歳
- ・年齢構成では「60歳代」が442人(26.0%)と最も多く、次いで「70歳代」が407人(23.9%)



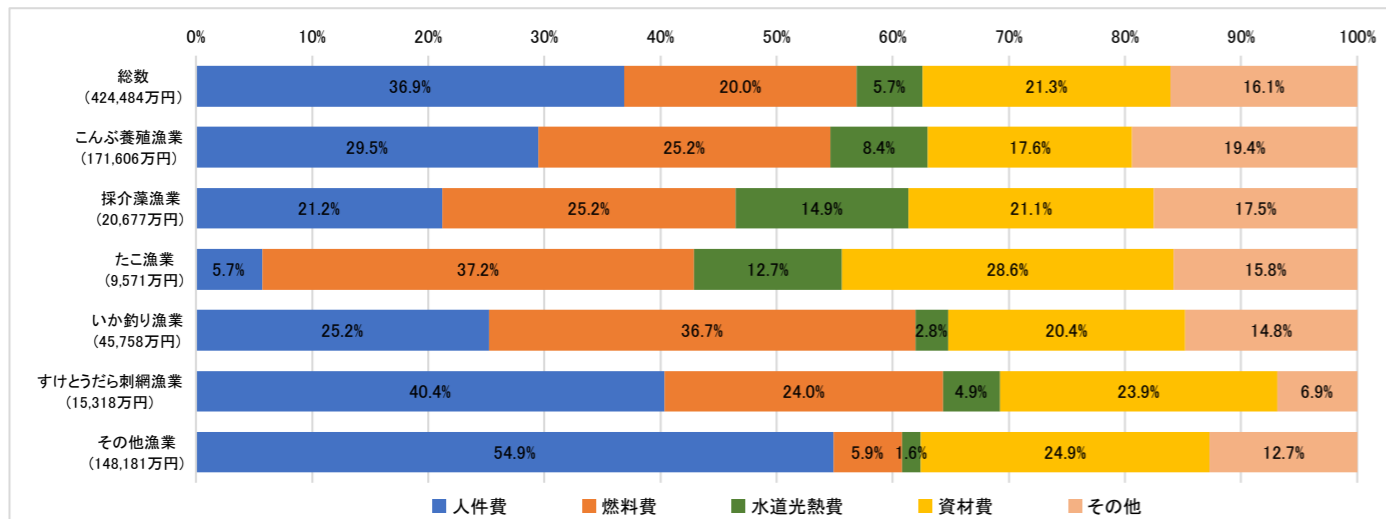
昨年1年間に漁業以外の仕事をしましたか？

- ・「漁業以外の仕事もした」247人のうち、7割近くが採介藻漁業や潜水器漁業に従事しており、水揚げが少ないなどの理由から建設業などと兼業している。



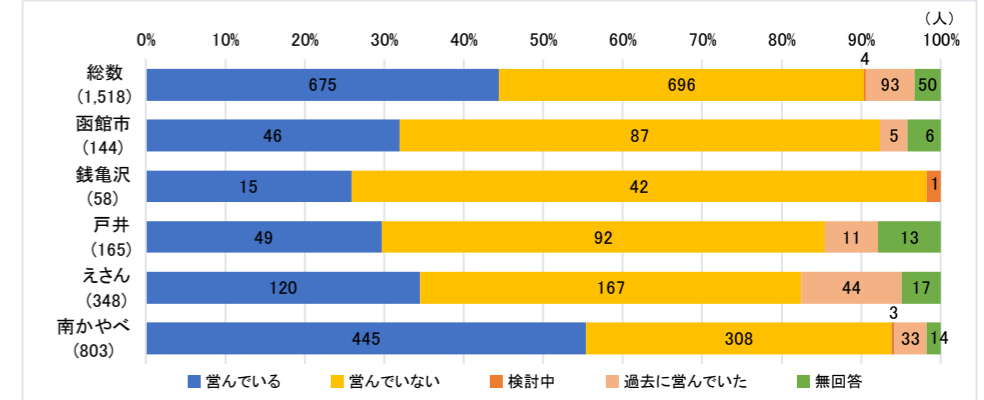
昨年1年間(令和3年1月~12月)の漁業にかかったおおよその支出額を記入してください。

- ・1年間にかかった支出額(経費)の内訳は、人件費の割合が最も高くなっている。
- ・漁業種類別では、こんぶ養殖漁業など人手を多く要する漁業で人件費の割合が最も高く、いか釣り漁業やたこ漁業では燃料費の割合が最も高くなっている。



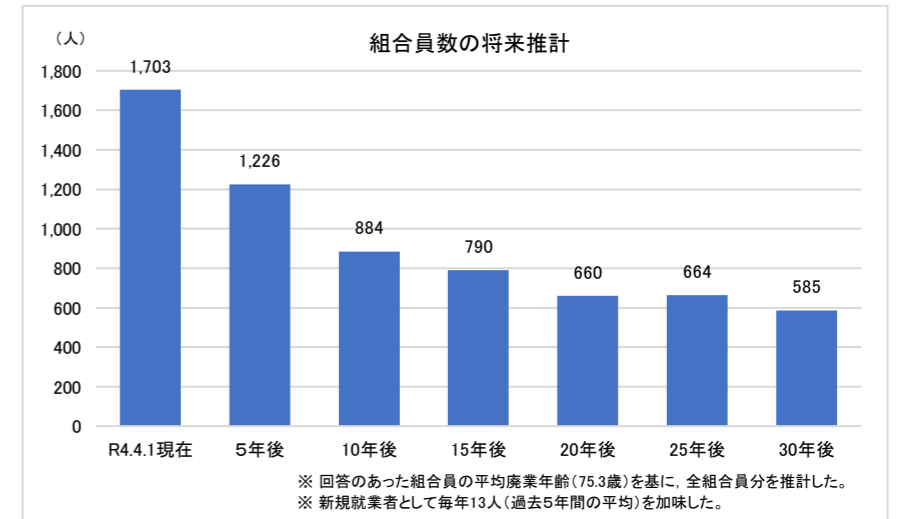
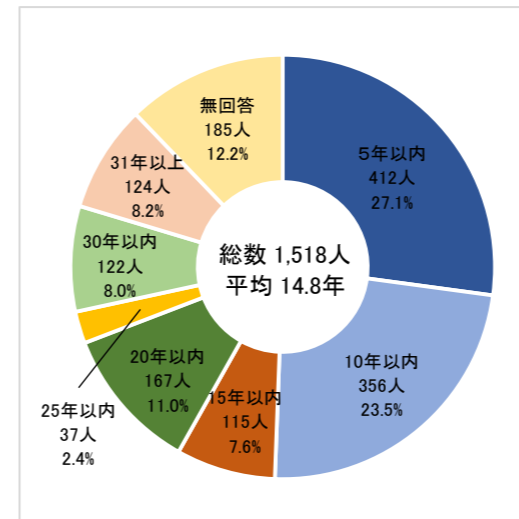
現在、コンブ養殖漁業を営んでいますか？

- ・全体では「営んでいる」が675人(44.5%)
- ・漁協別では、南かやべ漁協で「営んでいる」が445人(55.4%)と着業率が最も高い。



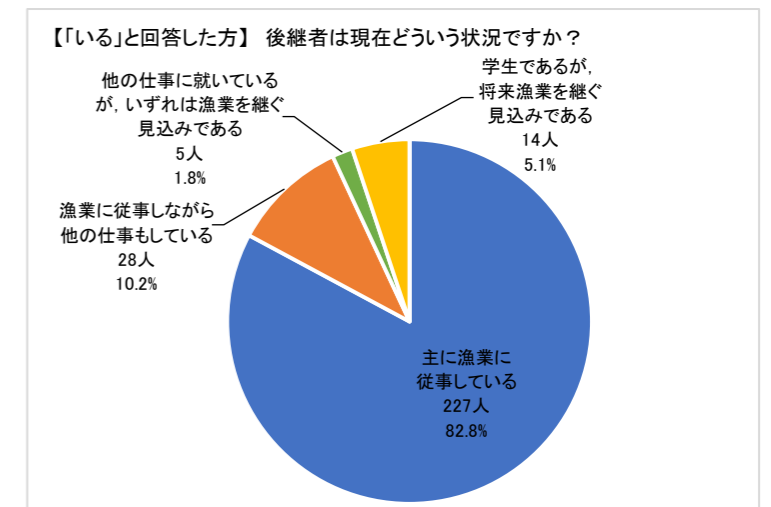
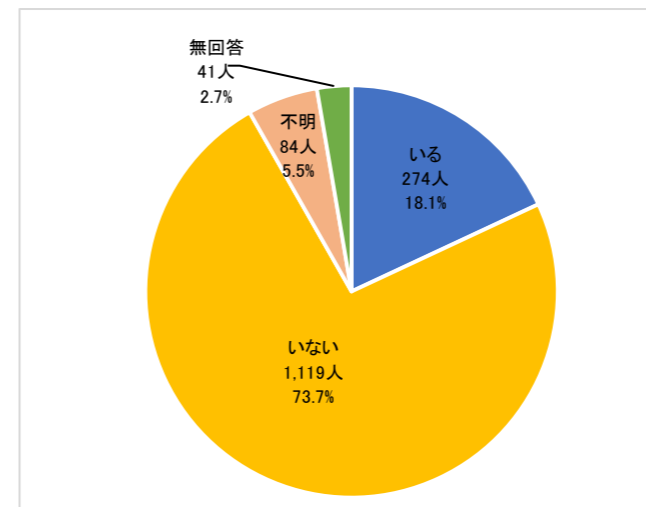
今後、漁業を続ける予定年数を記入してください。

- ・「5年以内」が412人(27.1%)と最も多く、「10年以内」と合わせると5割を占めている。
- ・全組合員数の将来推計では、10年後には現在の約半数の884人まで減少すると見込まれる。



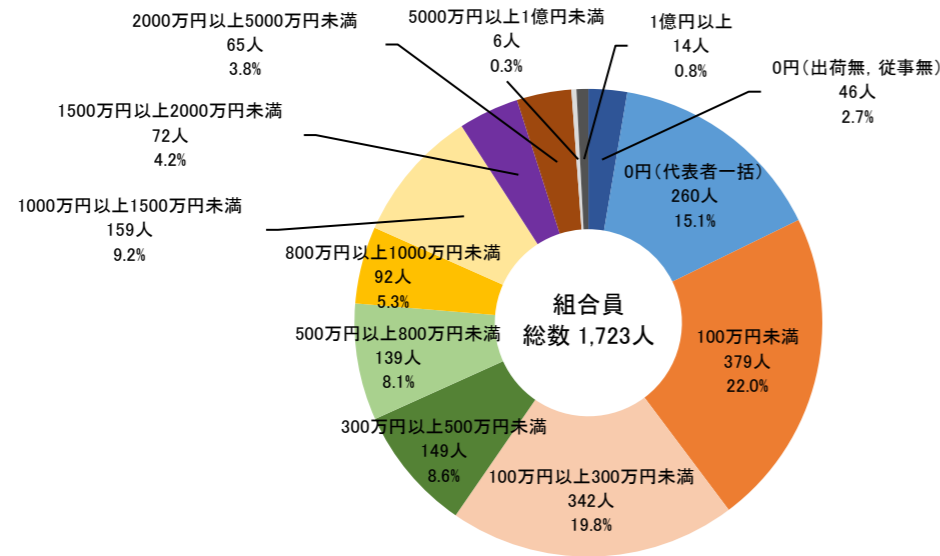
あなたには漁業の後継者はいますか？

- ・後継者が「いる」との回答は2割弱で、そのうちの8割はすでに「主に漁業に従事している」となっており、いずれもしくは将来漁業を継ぐ見込みであるとの回答はわずか19人となっている。



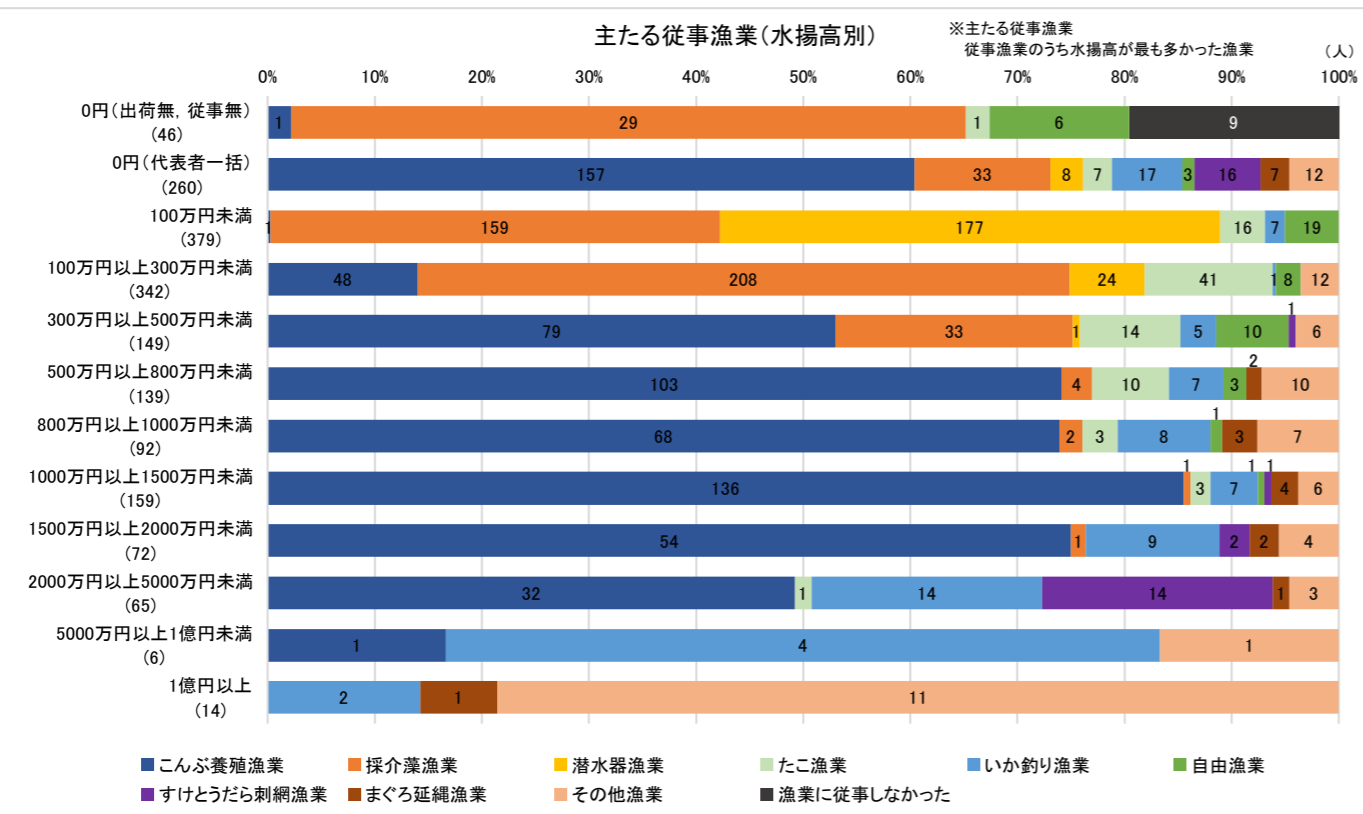
水揚高(令和3年1月～12月)

- 令和3年の組合員総水揚高(漁協自営定置は除く)は118億7,667万円となっており、うち南かやべ漁協が76億7,266万円(64.6%)を占めている。
- 水揚高別では、300万円未満が721人で全体の約4割を占めている。一方で、1,000万円以上が316人(18.3%)となっている。



従事漁業

- 主たる従事漁業(従事漁業のうち水揚高が最も多かった漁業)は、「こんぶ養殖漁業」が約4割、「採介藻漁業」が約3割を占めている。
- 漁業種類別では、300万円未満で「採介藻漁業」と「潜水器漁業」の割合が高く、300万円以上では「こんぶ養殖漁業」や「いか釣り漁業」などの割合が高くなっている。



所有漁船, 漁港・前浜船揚場利用

- 漁船数は全体で2,199隻で、うち80.6%が船外機船
- 漁港別では、大洞漁港が最も多い138隻、住吉漁港は最も少ない11隻が利用
- 10年後の将来推計では、漁港を利用する漁船数は現在の約6割、前浜船揚場を利用する漁船数は現在の半数まで減少

コンブ養殖施設

- コンブ養殖施設の所有者数は総数552人、施設総数6,673基で、1人あたり平均で12.1基
- 10年後の将来推計では、施設所有者は339人(△213人)、施設総数が4,754基(△1,919基)まで減少

自由記載(行政に対する支援や要望等)【抜粋】

- 天然漁場の回復のため、投石事業を実施してほしい。
- 天然コンブの繁茂状態が非常に悪い。この原因を調査してほしい。
- 高齢者、少人数でも経営を続けられるように支援をお願いしたい。
- 養殖コンブで生活をしているが、毎年の繁忙期には人員を確保できずにとでもとも困っている。
- 休日がないのが一番問題である。定置も養殖漁家も週1日は休みを取っている。組合がそういうことを決めればいいと思う。
- 自然に左右されない陸上養殖ができれば、高齢になっても漁業が続けられると思う。
- ナマコの種苗育成に力を入れ、資源量・漁獲高の安定を望む。
- コンブ養殖の新たな可能性としてブルーカーボンの研究を推進してほしい。

まとめ

《現状と課題》

アンケート調査および漁協聞き取り調査の結果を踏まえ、課題を大きく5点としてとりまとめた。

- 漁業就業者の確保
- 天然コンブの資源回復
- 漁業所得の向上
- 高齢漁業者の収入確保
- 海面・漁港などの有効活用

《今後の対策》

課題の解決に向けて、次のとおり取り組むこととする。

漁業就業者の確保に向けた対策

- 漁業就業体験などの機会の提供
- 必要な資格取得や技術習得、漁船等の取得費用に対する支援の検討
- 経営が不安定な期間を支援する制度の検討 など

天然コンブの資源回復に向けた対策

- 天然コンブの繁茂対策とブルーカーボンの取り組みの推進
- 天然コンブなどの藻場回復に向けた取り組みの強化 など

漁業所得向上に向けた対策

- キングサーモンの完全養殖技術の研究
- コンブの完全養殖技術の研究
- ウニ、アワビ、ナマコなどの養殖の可能性の検討
- ウニの蓄養試験に向けた取り組みの検討
- スマート水産業の導入などによる作業の効率化の検討 など

高齢漁業者の収入確保対策

- ウニの蓄養試験に向けた取り組みの検討(再掲)

海面・漁港などの有効活用対策

- コンブ養殖漁業の経営規模拡大や空き海面の有効活用の検討
- 漁港内の静穏域を生かした養殖事業の展開や用地の利活用の検討

その他

- 課題解決に向けて市と漁業協同組合など関係機関で構成する検討会議の設置